

■（１７７）復興釜石新聞、継続は見てきたが…

前々回に書いた岩手県釜石市の地域紙「復興釜石新聞」は被災した市民らからの救いの手もあり、９月末での廃刊という当面の危機を乗り越えた。が、残念ながら１０月は休刊することになった。配達や集金を担ってくれる人が集まらなかったからだ。

記者４人を含む社員８人という小さな新聞社。これまでは無料の市広報を兼ねていたの
で、市内全戸に約２４０人の配達員がまんべんなく配ってくれていた。が、有料となると、
購読契約を結んだ家や事務所を探して配達することになる。同じ部数を担当するならば、
より広い範囲を配ることにつながる。さらに有料化で、購読料の集金という仕事も加わる。
読者が在宅の時間に合わせて訪問しなくてはならない。記者兼編集長は「どうしたらいい
かを考えてはいたが、配達網構築がこんなに大変とは思わなかった」と言う。住民が各地
の仮設住宅に分散してしまった被災の激しい地区の準備が特に難航しているという。

といっても、被災者から応援や激励を受け、目標部数には届いたことから、立ち止まる
わけにはいかない。自分らで配ってでも、と１１月の再出発に向けて奔走している。（山）